

会議結果報告書

1. 会議名 令和4年度 第7回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和4年12月16日(金) 9:30~11:30
3. 場所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：岩井会長、小山委員、白川委員、関根委員、橋本委員、平林委員、福井委員、
村形委員、山崎委員、吉村委員、渡辺委員
事務局：環境保全課 海老原保全係長、清田主査補
5. 傍聴者 0名
6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・資料1：令和4年度版印西市環境白書(案)
7. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 題
 - ①令和4年度版印西市環境白書(案)について
—令和4年度版印西市環境白書(案)について事務局より説明—
会 長：環境白書について、意見質問があればお願いします。
委 員：22ページについて、大気の公害苦情件数が1件とあり、去年の環境白書53件と比べて少ない印象を受ける。
事務局：数値について、今一度確認させていただきたい。
委 員：4ページの師戸川のBOD濃度については、どのような対策をされているか。市街化調整区域における家庭のほとんどが合併処理浄化槽であり、その影響が懸念される。
事務局：市街化調整区域の合併処理浄化槽については、より高度な機種を導入を促進するための補助を行っている。川の水質改善に向けた直接的な対策は現時点では講じていないが、下流では環境基準を満たしていることから、測定地点の流量等に問題があることも考えられる。
委 員：合併処理浄化槽の点検状況はどうか。
事務局：例年、5年前の浄化槽設置補助対象者に対して水質検査や保守点検の実施状況の確認を行っている。検査を実施した50件のうち数件程度は不適正の結果が出ているが、例年は概ね適正となっている。
委 員：不適正の家庭へは、どのような指導・対策をされているか。
事務局：水質検査の結果を通知し、保守点検・清掃の実施、法定検査の受検について指導している。また、不適正となった家庭については、翌年度も検査対象とし、改善

されたかどうかを確認することとしている。

委員：土壌の汚染に係る環境基準、地下水の水質汚濁に係る環境基準、道路交通騒音測定値は星1つとなっている。どのような対策をされているか。

事務局：飲用指導等の対応を実施している。

委員：28 ページについて、数年前と比べ過料件数が大幅に減っているが、トラブルを恐れて過料を取っていないのではないか。

事務局：担当のクリーン推進課に確認させていただく。

委員：16 ページの今後の方向性に、「草深の森と武西の里山では、NPO 団体との協働による保全活動を実施しました」とあるが、環境保全課に関連した保全活動のみ記載されている。都市整備課に関連した保全活動についても記載されたい。17 ページのワニグチソウ・カヤネズミの巣の写真が分かりづらく、差し替えをお願いしたい。また、同ページに記載のある特定外来生物の動物3種類とは何か。29 ページについて、グッドマンの建築物は、周りの植栽に配慮されてはいると思うが、もっと里山の風景に自然と入るよう工夫してもらえれば良かったと思う。事業用地に景観条例は適用されないものか、お尋ねしたい。

事務局：景観条例の所管である都市計画課に確認し、改めて回答させていただきたい。

会長：建ててからでは遅いため、建てる前に伝える、もしくは市が指導することが必要だと思う。データセンターなどの開発時は、市に事前に情報が来るのではないか。

事務局：開発事前協議はなされていると考える。

委員：33 ページのCO₂排出量の推移グラフは、印西市全体のものか。

事務局：印西市全体のものである。

会長：これは企業や家庭から排出される印西市全体の量である。なお、実際に測定したものではなく、推計によるものである。

委員：データセンターなどから発生するCO₂排出量は含まれているか。

事務局：千葉県のCO₂排出量を印西市の規模で按分した値となっている。データセンターなどが印西市に集積することで、今後多量に排出されることが見込まれることを踏まえ、昨年度に策定した環境基本計画における区域施策編では、国が大規模排出事業者に対して、二酸化炭素排出量の報告を求める制度の報告値を活用するなど、印西市の二酸化炭素排出量をモニタリングすることとしている。

会長：私から、印西市、白井市、栄町の2市1町では、今後、何年かかけてごみ処理の有料化を検討している。印西市のごみ発生量は、千葉県の排出量の平均以下であり、印西市はデータセンターが出来たおかげで市の財政が潤うこともあり、ごみ処理費用が足りなくて困っている状態ではなく、有料化のほか指導等による減量化も可能であると考え、私は反対している。情報共有させていただいた。

委員：印西市は自然と都市という2つの魅力があり、都市と自然が調和するまちを目指すのであれば、自然環境を担う環境保全課には頑張ってもらっていただき、増える税収の

半分は自然保護に使っていただきたい。里山を守るにはお金がかかるが、このままでは、山は荒れ、亀成川は土が流れ込み、水害に耐えられなくなる。都市機能が潤うだけの印西市となってしまうことを危惧する。38～39 ページの教育センターについて、草深の森を使って、子供たちに森の楽しみを紹介する活動を年に3～4回実施されているが、自然環境の保全には、市民の力を借りることが大事となるため、保全活動についても取り入れていただきたい。

委員：15 ページ「本市では農業者の高齢化や担い手の不足によって、農地の管理不足、農地の減少が課題となっています。」とあるが、どのような対策をしているか。辞めてもいいと思っている農家も多いと思う。田んぼが荒れると環境にも良くないし、これから何十億と世界人口が増えることを踏まえると、農地や田んぼを守ることが重要だと思う。担い手を育てる取組を考えて、農政課だけでなく農家の人も協力していく必要がある。

委員：復田ができない状況になると、再び開墾することは非常に困難となる。少しでもいいので、草刈り等することが大切である。そのためには、農政課だけでは難しいと思われ、耕作放棄地の回復に特化した部署を作ることも検討していただきたい。

会長：日本の大問題だと思う。お金がかかるがソーラーシェアリングといった技術も注目されている。

委員：最初の投資額が大きいこともあり、高齢になってからソーラーシェアリングに取り組む農家は少ないと思われる。

会長：修正後の最終版の環境白書は委員に配布いただけるか。

事務局：配布させていただく予定である。

会長：環境白書については、以上とする。

②環境基本計画の推進について

一環境基本計画の推進について事務局より説明一

委員：千代田区の環境カレンダーを参考に、下部にカレンダー、上部左側に写真、NPOの紹介、上部右側に情報コーナーという構成で作成を検討している。3グループで4ヶ月ずつ、合計12ヶ月を作成する想定である。

会長：情報を入れすぎると読みづらくなることが懸念され、注意する必要がある。

委員：ご家庭で利用してもらえるよう、綺麗な鳥や里山を掲載していきたい。

事務局：確定的なことは今の時点ではお伝えできないが、状況によっては、業者を介せない可能性があることをお考えいただければと思う。その場合は、事務局で印刷することも考えている。その他、クリーン推進課のカレンダーとも重複感があり、環境保全課としてカレンダーを作る意味合いを明確にしたい。また、毎年作るかどうかとも検討していただきたい。

- 委員：当初より検討してきたとおり、市民の目に入るということを環境カレンダー作成の目的の一つとしている。
- 会長：毎年カレンダーを作成するかについてはどうか。
- 委員：不評であればワンショットで終わるが、市民の皆さんから好評いただければ、続けてもいいと思う。
- 会長：委員の任期もあるため、次の委員が継続できるかどうか考える必要がある。完成したカレンダーはどのように配布するか。
- 事務局：公共施設に置くほか、ホームページから印刷していただく形も想定したい。
- 会長：部数はどれぐらい作成するか。
- 委員：少なくとも自治会や集会所に配布したい。カレンダーの中身・コンセプトを市民会議で考え、デザインについてはデザイナーへ依頼したい。
- 会長：スケジュールとしては、再来年度のカレンダーであるため、来年度を通して作成することになる。
- 委員：来年の10月頃までに完成させたく、あまりのんびりできない。
- 会長：それでは、カレンダーを作るための写真やアイデアについて、グループで協議いただきたい。それぞれのグループは何月を担当するか決めた方が良いか。
- 委員：温暖化のグループは、季節ごとのイベントも含めて年間を通して検討した上で、4か月の案を出したい。
- 会長：それでは、グループごとに検討する時間とする。
- ーグループごとに検討ー
- 会長：各グループ、検討経過の報告をお願いします。
- 委員：温暖化グループは、各自がアイデアを持ち寄り、温暖化に関するものを取りまとめて、次回、市民会議で報告させていただく。各自は、1月中旬までにアイデアを出して、それを取りまとめて市民会議に臨みたい。次回の市民会議はいつを予定されるか。
- 事務局：次回の市民会議は、流動的に日程を調整したい。当初の年間スケジュールでは、2月を予定していたが、必要に応じて調整をさせていただきたい。
- 会長：1月に会議を実施するのであれば、中旬以降にお願いできればと思う。また、温暖化に関連して、以前、審議会を傍聴した際には、ゼロカーボンシティに関する検討がされており、今年度中に宣言される可能性が非常に高くなっている。もしゼロカーボンシティ宣言がされたら、市民にそのことを伝えたく、カレンダーの1月に掲載したいという意見が挙がった。
- 委員：グリーンインフラグループは、カレンダーの各月に環境活動団体を掲載するのではなく、「環境保全課が把握している団体」といった注釈をつけ、環境活動関係団体一覧という形で裏表紙に掲載してはどうかという意見が挙がった。各月のカレンダーの具体的内容については、メンバー同士、メールでやり取りすることと

した。

委員：サステナブルグループは、1月から12月までの写真のイメージについて、議論をした。1月は例えば白鳥、2月は印旛沼公園の梅、4月は小林牧場とか吉高の桜、5月は田植えの景色、6月は藤の季節なのでアジサイ通りやホテル鑑賞会の写真、7月は夏祭りに神社でやる伝統芸能の獅子舞、8月は稲刈り、9月は結縁寺の彼岸花などが意見に挙がった。花でなくとも、鳥でもいいと思い、白鳥や調整池のカワセミの写真も考えられる。10月はコスモス、12月はイルミネーションも良いと思う。

会長：写真については、今時点では統一できないため、各グループでも考えていただきたい。それでは、議事を終え、進行を事務局へお返しする。

(4) その他

事務局：本日欠席の川井委員から情報提供があり、ホテルに関する新聞記事とチラシを配布している。次回の会議スケジュールについて、予定が早まる場合、皆様へご連絡させていただく。

(5) 閉会

以上

令和4年度第7回印西市環境推進市民会議の会議録は事実と相違ないことを承認します。

令和5年2月17日

印西市環境推進市民会議 委員 村形 彰治

印西市環境推進市民会議 委員 山崎 久恵